生徒が楽しく取り組める授業展開を学ぶ
剣道指導者研修会を秋田県と福岡県で開催

令和７年度全国剣道指導者研修会
（東日本ブロック・西日本ブロック）

軽米講師の主導により参加者全員で「面。小手。胴」の発声

令和７年度全国剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、[東日本ブロック（以下、「東日本」）：秋田県教育委員会、秋田県剣道連盟］［西日本ブロック（以下、「西日本」）：福岡県教育委員会、福岡県剣道連盟]）が、東日本は 10 月 24～26 日の日程で、秋田県秋田市の県立武道館とホテルメトロポリタン秋田にて参加者 67 名が、西日本は 11 月 14 日～16 日の日程で、福岡県福岡市の県立スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）にて参加者 58 名が集まって実施された。

本研修会は、安全で生徒が楽しく取り組める授業を目指して、安全管理の講義や、導入として楽しい動機付けの実践、剣道具がない場合の授業例、授業で行う試合の判定方法の実技研修のほか、音楽に合わせて打つ楽しさを味わうことのできるリズム剣道を紹介。さらなる楽しさの「しかけ」としてどんぱん節（秋田県民謡）と炭坑節（福岡県民謡）など地元に根ざした音楽での例示がなされた。

◆実施内容

1 日目：講義Ⅰ「中学校保健体育における剣道学習の考え方」（東日本：藤田弘美、西日本：柴田一浩）

講義Ⅱ「安全指導・衛生管理」（共通：百鬼史訓、軽米満世）

2 日目：実技「楽しい動機付け　歴史／剣道の特性と体ほぐしの運動」（共通：軽米満世）

「楽しい動機付け　遊びの体験／動きづくり」（東日本：山神眞一、山田博子、西日本：山神眞一、柴田一浩）

「剣道具のない授業例 1」（東日本：吉田泰将、花澤博夫、西日本：花澤博夫、井上孝、山上眞一）

「剣道具のない授業例 2」（東日本：吉田泰将、有田祐二、佐藤義則、西日本：花澤博夫、井上孝、佐藤義則）

「剣道具のある授業例 1」（東日本：藤田弘美、花澤博夫、山上眞一、山田博子、
西日本：藤田弘美、勝島恵利、山上眞一、柴田一浩、軽米満世）

「剣道具のある授業例 2」（東日本：佐藤義則、有田祐二、藤田弘美、軽米満世、
西日本：佐藤義則、勝島恵利、藤田弘美、軽米満世）

3 日目：講義Ⅲ「指導者とインテグリティ」（東日本：山神眞一、西日本：花澤博夫）

研究協議（共通：藤田弘美、全講師）

講話（共通：網代忠宏）

◆講師一覧

◇東・西日本共通

網代　忠宏（全日本剣道連盟名誉会長）

百鬼　史訓（全日本剣道連盟参与・学校教育部会委員、東京農工大学名誉教授）

佐藤　義則（全日本学校剣道連盟副会長）

軽米　満世（全日本剣道連盟常任理事、学校教育部会委員長）

山神　眞一（香川大学名誉教授、放送大学香川学習センター所長）

花澤　博夫（大阪学校剣道連盟会長）

藤田　弘美（行橋市立行橋中学校教諭）

◇東日本のみ

吉田　泰将（慶応義塾大学体育研究所教授、全日本学校剣道連盟事務局長）

有田　祐二（筑波大学体育系准教授）

山田　博子（宇都宮市立陽西中学校副校長）

◇西日本のみ

柴田　一浩（流通経済大学教授）

井上　　孝（まんのう町立満濃中学校学校支援員、全日本学校剣道連盟理事）

勝島　恵利（廿日市市立四季が丘中学校教諭）

研修会の模様

講義「中学校保健体育における剣道学習の考え方」（西）
剣道授業の実施状況の共有や学習指導要領を踏まえた
授業の進め方・学習評価について説明

実技「剣道授業における体ほぐしの運動」（西）
楽しい雰囲気で生徒に剣道で用いる動きを体験させ、
剣道の特性を意識するためのじゃんけんゲーム

実技「剣道の要素を感じとらせる遊びの体験」（東）
新聞紙を持つ角度を変えることで竹刀の振りの大小が
変わることを感じられる

実技「剣道に必要な動きづくり」（東）
相手に伝わる大声を恥ずかしがらずに出せるよう
になるため全員で発声

実技「木刀による剣道基本技稽古法」（西）
未経験者は経験者とペアになり、剣道で用いる技の
仕組みや間合いを学ぶ

実技「竹刀による授業例」（東）
安全に配慮した正しい打ち方・打たせ方の
留意点を確認

実技「音楽を活用した授業例」（東）
音楽に合わせた基本動作をグループごとに発表する。
授業では巡回しながら個別指導を行うことが可能

実技「剣道具の着装と結束」（西）
授業時間内に剣道具の着装から片付けまでを
完了させるための工夫

実技「ごく簡易な試合」（西）
審判は１人ずつ「気」「剣」「体」を担当し、
打突が自分の担当項目を満たしていたかを判定

実技「絶対評価の判定試合」（西）
判定後、審判はすぐに集まり、判定した理由および
向上のためのアドバイスを互いにする

講義「指導者とインテグリティ」（東）
対戦相手、チームメイト、審判へ敬意をはらうために
指導者が心がけるべきことを説明

研究協議（西）
研修会を通しての感想や自身の授業経験、地元で
困っていることなどをグループで共有

令和７年度参加者感想（抜粋）

大きな声を出すことも、慣れない動きを皆さんの前ですることも、はじめはちょっと嫌でした。でも、いつの間にか嫌ではなくなっていました。先生も、周りの皆さんも、当たり前のようにやっているので、それが当たり前になりました。そういった空気作り、成功体験と仲間が助けてくれるという安心感が必要なんだと思いました。

私自身が剣道経験者ということもあり、授業を行う上で、どこまで求めていいのか分からなくなることが多くあります。初めて剣道の授業を行った際は、細かいところまで気にしてしまい、授業がなかなか進まなくなってしまっただけでなく、求めるものも多くなってしまい生徒のモチベーションの低下にも繋がってしまいました。「気」「剣」「体」の簡易的な試合は審判をする人が１つのことに集中して観察できるのでとても有効だと思いました。実際に自分の授業でも防具を着けて、時数を確保できるのであれば、実施してみたいと思います。

私は剣道初心者ですが、今回の研修で講師の先生方に教えていただく中で、生徒の気持ちを経験することができました。初めて竹刀を使って面を打てたとき、私にも剣道ができるんだ、という喜びと同時に、もっとやってみたい！と感じました。正直、剣道は道具を準備するのが大変で、自分にはできないものだと勝手に決めつけていたのですが、リズム剣道や剣道じゃんけんなど誰でもできる運動から始め、防具をつける練習、打突部位に竹刀を当てる練習などを行っていくうちに、私にもできる、とすごく身近に感じるようになりました。また、剣道では礼儀作法を重んじる、相手を思いやる、といった学校生活、日常生活にもつながることを生徒たちに伝えることができるので、ぜひ授業を行いたいと思います。

「生徒を楽しませる剣道」がとても印象に残った。技術の習得や勝敗に目が向きがちだか、まずは生徒が「剣道っておもしろい」と感じることが出発点だと学んだ。講師の先生方の指導法や声かけの工夫から、稽古の一つ一つに「楽しさ」や「気づき」を生み出すヒントを得ることができた。これからは、形だけでなく、学びの意欲を引き出すような雰囲気づくりを意識していきたい。生徒が笑顔で竹刀を握り、自ら進んで取り組む姿を引き出せるよう、今回学んだことを日々の実践につなげていきたい。

研修では、剣道の技術指導はもちろんのこと、武道が持つ教育的価値、特に「礼節」や「相手を尊重する心」をいかに生徒たちに伝えるかという点に重点が置かれていました。講義や実技を通じて、単なる技術習得ではなく、剣道を通じて人格形成を目指すという指導の根幹を再確認できました。